

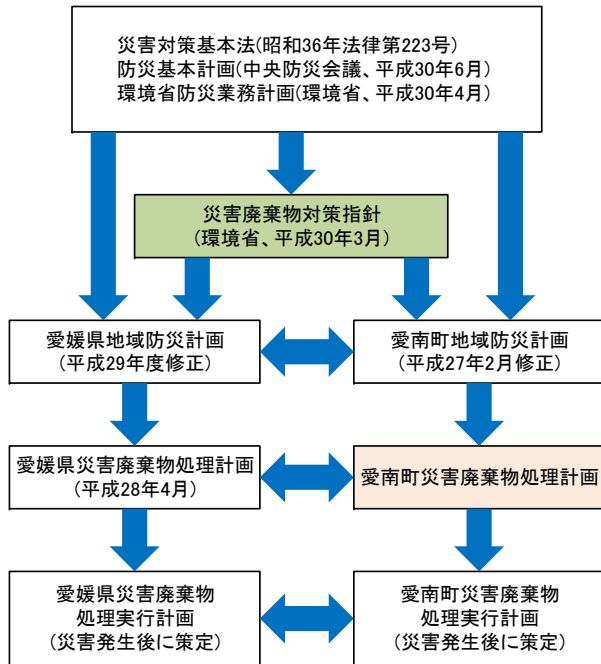
愛南町災害廃棄物処理計画【概要版】

■計画の目的

本計画は、本町で今後発生が予想される大規模地震や津波及び風水害に備え、災害により発生した廃棄物を迅速かつ円滑に処理し、速やかな復旧・復興を進めるための対応及び手順等の必要事項をあらかじめ整理・取りまとめたものです。

■計画の位置付け

災害廃棄物対策指針に基づき、愛媛県が策定する災害廃棄物処理計画との整合性を図ります。

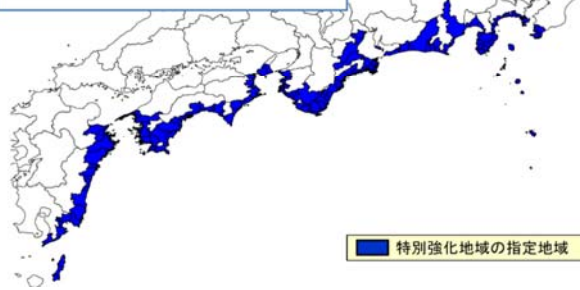


■対象とする災害

愛南町地域防災計画においては、広域かつ甚大な被害が予想される南海トラフ地震を防災対策上重視しなければならない地震としており、本計画の対象としています。

指定基準の概要

- 津波により30cm以上の浸水が地震発生から30分以内に生じる地域
 - 特別強化地域の候補市町村に挟まれた沿岸市町村
 - 同一府県内の津波避難対策の一体性の確保
- ※浸水深、浸水面積等の地域の実情を踏まえ、津波避難の困難性を考慮



南海トラフ地震津波避難対策
特別強化地域の指定

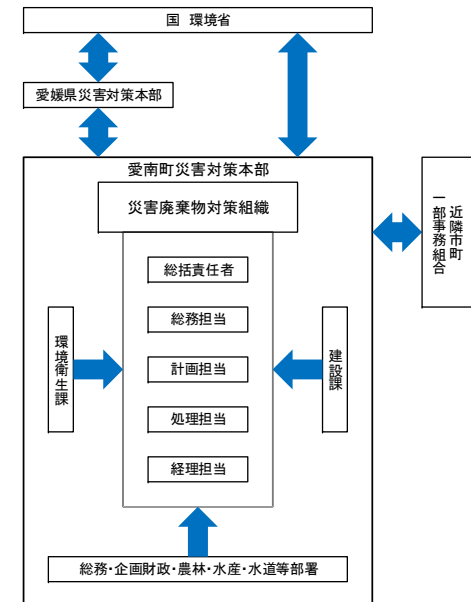
■対象とする災害廃棄物

発生源	種類
地震・津波・風水害等の災害	不燃性・可燃性混合物、木くず、コンクリートがら、金属くず、廃家電、廃自動車、廃船舶、津波堆積物等
被災者や避難者の生活	生活ごみ、避難所ごみ、仮設トイレのし尿

■災害廃棄物処理の基本方針

災害廃棄物の種類	処理の基本方針
可燃物	焼却処理を基本に再生利用(焼却灰)の可能性も検討
不燃物	埋立処分を基本に再生利用の可能性も検討
コンクリートがら	可能な限り再生資源(路盤材、骨材等)として活用
金属	可能な限り金属くずとして売却
柱角材	
津波堆積物	可能な限り再生資源(盛土材、埋戻材等)として活用

■内部組織体制



■災害廃棄物等の発生量推計と処理期間

種類	発生量	処理期間
可燃物	79,829t	3年程度以内を目標とします
不燃物	80,082t	
コンクリートがら	230,737t	
金属	29,285t	
柱角材	23,949t	
小計	443,882t	
津波堆積物	189,120t	
合計	633,002t	

注) 災害廃棄物等の発生量及び避難所ごみ・し尿の発生量等は、南海トラフ地震の被害が最大となる「冬・18時」発生の場合のものです。

■避難所ごみ及びし尿の発生量推計と処理方針

区分	発生量等	処理方針
避難者数	10,239人	平時と同様の家庭ごみの分別・処理方法、し尿の処理方法に基づくことを基本とします
ごみ	7t/日	
し尿	17kℓ/日	

■災害用トイレの必要数と備蓄数等

種類	必要数	備蓄数等
仮設トイレ	132基	現状では備蓄なし
簡易型災害用トイレ	95,911個	現状の備蓄数約9,000個で今後整備を検討します

注) 簡易型災害用トイレ：携帯トイレ相当で推計

■仮置場の種類と候補地の選定

大規模災害発生時において迅速に災害廃棄物への対応を行うため、仮置場の候補地をあらかじめ選定しておきます。

一次仮置場	片付けごみ主体	主に被災家屋の片付け時に排出される災害廃棄物の仮置きで、可能な限り分別して搬入する
	混合廃棄物主体	津波や道路啓開等によりやむを得ず混合状態となった災害廃棄物を搬入し、粗破碎・粗選別を行う
二次仮置場		一次仮置場から搬入した災害廃棄物を仮置きした後、破碎・選別を行う

■仮置場の必要面積：19.7ha(環境省推計法方法による)

■災害廃棄物の処理フロー

仮置場のスペース等も考慮しつつ、一次仮置場での分別の徹底を優先し、比較的小規模な処理を行うことを基本とします。

